



早稲田ミョウガタケ



江戸千住葱



早稲田ミョウガ



府中御用ウリ

江戸東京野菜



伝統小松菜



馬込三寸人参



亀戸大根



内藤カボチャ

食卓に、江戸東京の「伝統野菜」がよみがえる



タネを通して命を伝える伝統野菜

江戸から東京になった明治、大正、昭和の時代を生き抜いてきた固定種の野菜を「江戸東京野菜」と呼んでいます。産地としては、隅田川を挟んで武蔵國と下総國の地域にできた江戸という都を含めた東京府、神奈川県だった多摩地域、洋上1千キロの伊豆諸島から小笠原までの現在の東京都の地域で栽培された野菜が該当します。

「固定種」の野菜とは、タネを蒔き、収穫したものを食べ、またその野菜のタネを採種して、翌年蒔くというように、タネを通して命が今日まで伝わってきた野菜です。特徴は、揃いが悪いことですが、収穫できる季節が決まっています。「旬」のわかる野菜で、野菜本来の味がします。しかし、現在市場で流通しているほとんどの野菜は、「交配種」と呼ばれる高度な育種技術で作られた一代限りの雑種 (F1) のため、タネは毎年購

入するしかありません。

小松菜を例にとれば、江戸東京野菜の小松菜は冬の野菜で「伝統小松菜」と呼んでいますが、市場で販売されている小松菜の多くは、チンゲン菜など中国野菜との交配で作られたもので、北海道から沖縄まで一年中栽培されています。また、「練馬大根」や「亀戸



江戸東京野菜がわかる本

大竹 道茂

おおたけ みちしげ

1944年1月東京都生まれ。江戸東京・伝統野菜研究会代表。JA東京グループで江戸東京野菜の復活に取り組む。農林水産省選定「地産地消の日本人」。総務省「地域力創造アドバイザー」。NPO法人江戸東京野菜コンシェルジュ協会代表理事。主な著書に江戸東京野菜 物語篇、監修の江戸東京野菜 図鑑篇(農文協)。 <http://edoyasai.sblo.jp/>



大根」など江戸で作られていた大根は、白首大根で冬から早春の野菜です。現在一年中販売されている青首の大根は江戸にはありませんでした。

江戸のレガシーを次の世代へ継承

1980年代、東京で伝統野菜を栽培する農家が激減し、江戸東京野菜は15品目になっていました。伝統野菜は、江戸からの歴史・文化をいまに伝えるレガシーです。こうした貴重な遺伝資源を次世代に伝えることが、現代を生きる者の使命と考え、その継承に取り組んでいます。伝統野菜は食べなければ無くなってしまう、絶滅が危惧される野菜とっていいでしょう。

伝統野菜の復活普及の取り組みは、全国的に行われていますが、いまや時間との戦いです。交配種の時代となったいま、昔の野菜(固定種や在来種)を知る長老は少なく、タネの所在すらわからなくなっています。伝統野菜は今日の流通に乗らなくなってしまった野菜ですから、江戸東京野菜は東京に来て食べていただくほかありません。東京のおもてなし食材として、地産地消を体感してほしいものです。

江戸で生まれ、東京で結実する美味たち

江戸東京野菜は現在50品目にもなりましたが一つひとつ物語があります。「府中御用ウリ」は、戦国の武将、信長、秀吉、家康が好んだ美濃國の真桑瓜^{まくわうり}を江戸に持ち込んだもので、武蔵國の府中で栽培を始めました。当時は、毎年美濃から百姓の治左衛門と久右衛門の二人を連れてきて栽培をさせ、8月上旬に収穫が終わると二人は美濃に帰っていきました。「練馬大根」は、五代将軍の綱吉が尾張から大根のタネを取り寄せ、練馬の地で作らせたもので、火山灰土の柔らかい土になじんで長い大根ができました。また八代将軍の吉宗は、鷹狩りで小松川を訪ねた際食べた餅の澄まし汁に入っていた青菜がたいそう気に入り「小松菜」と名付け

ました。

発見の経緯が物語になった野菜もあります。ミョウガはタネで増えるのではなく地下茎で増えることから、早稲田にお住いの旧家の屋敷地などに江戸で有名だった「早稲田ミョウガ」が生えているのではと思い、早稲田大学の協力を得て「早稲田ミョウガ搜索隊」を結成しました。数回にわたる搜索で、明治26年からお住いの自宅に早稲田ミョウガが生きていました。今日、早稲田ミョウガは、9月にミョウガの子が、3月にはミョウガタケが、新宿区立27校の給食で食べられています。



東京の食材に注目する三國シェフ(右)

東京のブランド肉 秋川牛に、江戸東京野菜の滝野川ゴボウ、伝統小松菜、金町コカブ、亀戸大根、奥多摩わさびなどを添えた一皿



他にも、三國清三シェフが丸の内にオープンしたフレンチレストラン「mikuni MARUNOUCHI」で、東京の食材を使った料理を提供したり、伊豆諸島で栽培されている日本原産の「アシタバ」がグルメの間で密かな人気を呼んでいるなど、伝統野菜が確実に復活しつつあるのを実感しています。



三宅島のハンノ木と共生するアシタバ